

新型コロナウイルス感染症対策特別委員会
第一回調査結果報告書
【提 言 書】

令和 4 年 9 月 27 日
福 生 市 議 会

目 次

1	調査目的（付議事件）	1
2	調査事項	1
3	審査の経過と内容	1
4	調査研究概要	3
5	提言（調査結果）	4
6	新型コロナウイルス感染症対策特別委員会委員名簿	1 4
7	参考資料	1 5

（令和3年12月10日委員会資料）

コロナ禍における社会教育事業（生涯学習推進課及び公民館所管分）

（令和4年2月3日委員会資料）

コロナ禍における社会教育事業（スポーツ推進課及び図書館所管分）

（令和4年3月22日委員会資料）

コロナ禍における介護予防に関する事業（介護福祉課）

コロナ禍における健康増進・子育てに関する事業（健康課）

コロナ禍における子育てに関する事業（子ども育成課）

コロナ禍における子育てに関する事業（子ども家庭支援課）

（令和4年5月10日委員会資料）

コロナ禍における町会・自治会に関する事業（協働推進課）

コロナ禍における学校教育に関する事業（教育指導課）

コロナ禍における学校教育に関する事業（教育支援課）

1 調査目的（付議事件）

新型コロナウイルス感染症対策に関する事項について調査研究を行うこと。

2 調査事項

社会活動等について

「町会・自治会」「介護予防」「健康増進」「子育て」「学校教育」「社会教育事業」

3 審査の経過と内容

（社会活動等に関する審査経過）

回数	開催日	審査内容
第1回	令和3年 5月14日	正副委員長の互選について 委員長 小澤芳輝 副委員長 杉山行男
第2回	6月11日	今後の本委員会の進め方について 本委員会については、1か月半に1回程度開催することで決定した。
第3回	8月3日	今後の新たな議題について 6月11日に発言のあった各委員の意見を参考に、今後の新たな議題について協議し、議題の一つとして「社会・経済活動について」を審査することが決定した。
第4回	9月17日	社会・経済活動について 委員間での質疑等もあることから、発言回数の制限を設けないことに決定した。 各委員から本議題の現状や課題等について発言がされ、引き続き審査することを決定した。
第5回	11月4日	副委員長の互選について 副委員長 佐藤弘治 社会・経済活動について 社会活動を中心に、市や教育委員会の事業について調査研究していくことに決定した。
第6回	12月10日	社会・経済活動について 《調査内容》 社会教育事業（生涯学習推進課、公民館）

第7回	令和4年 2月3日	社会活動等について 《調査内容》 社会教育事業（スポーツ推進課、図書館）
第8回	3月22日	社会活動等について 《調査内容》 介護予防、健康増進、子育て （介護福祉課、健康課、子ども育成課、子ども家庭支援課）
第9回	5月10日	社会活動等について 《調査内容》 町会・自治会（協働推進課） 学校教育（教育指導課、教育支援課）
第10回	6月17日	社会活動等について これまでの各委員の意見をまとめた資料『各課の報告に基づく各委員の意見等（概要）』を参考に、本委員会の提言について審査した。
第11回	8月5日	社会活動等について 提言のたたき台となる資料『社会活動等について』を参考に、本委員会の提言について審査した。
第12回	9月16日	社会活動等について 8月5日に発言のあった各委員の意見を参考に提言案を記載した資料『社会活動等について』を審査し、社会活動等についての提言を決定した。 新型コロナウイルス感染症対策特別委員会第一回調査結果報告書（案）について

4 調査研究概要

項目	主な事業	調査研究概要（総括）
イベント等	福生市成人式 福生市子ども議会 市制施行 50 周年記念事業『特別講演会』、 『ネッツ多摩 S & D フィールド（市営競技場）オープニングセレモニー』	感染症対策を講じた上で、できることをやっていると姿勢がとてよかった。また、誰が参加しているのか分かる体制で実施できており、人流を分散させる新たな取組も実施された。
居場所 心・体のケア	〔子供〕 学童クラブの午前中開所 子育てひろばのイベント実施 図書館における「おはなし会」の実施 学校教育におけるエールウィーク等 〔成人・高齢者〕 新春ふっさウォーキング 介護予防教室 公園体操	児童館や子育てひろば等を開所していたことは、子供や保護者の方々の心のよりどころとなった。介護予防・健康増進においては、コロナ禍であっても体を動かす機会の確保が必要となる。マスクの取扱いについては心のケアも含め今後検討が必要となる。
動画配信 ICT 活用	〔動画配信〕 公民館事業、筋力トレーニング、読み聞かせ、感染予防、子育て、保育園施設見学、おうちでプチ工作など 〔学校における ICT 活用〕 学習用端末（iPad）及び電子黒板等の配備、オンライン授業、全校集会の実施	通常どおり事業が実施できない中、多くの事業で動画配信を活用した取組が実施された。学校教育においては、学習用端末（iPad）等を活用したオンライン授業などの取組が推進された。
事業継続 （工夫、方法）	学童クラブ等の手続きにおける郵送対応 子育てひろばの人数把握用マグネット作成 学校給食のパンの個包装化	事業を継続するために、感染症対策として様々な工夫がされた。利便性の向上や業務管理、他の感染対策として今後も活用できる内容があった。
人材 啓発 組織	介護予防リーダーの介護予防活動 町会・自治会役員向け勉強会の開催 地域活性化交付金対象事業の提案 iPad 導入時の教員研修 り患者対応の組織横断体制の構築	コロナ禍等の対応も踏まえた研修や人材育成が必要となる。また、市職員においては、一人の職員に過重な負担がかからないよう、組織全体で対応することが必要となる。

5 提言（調査結果）

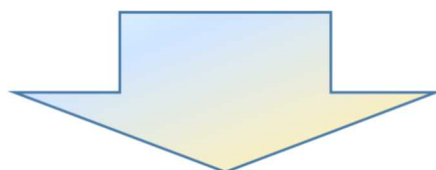
イベント等

○調査研究した主な事業（所管部署から報告のあった主な事業）

- ・福生市成人式
- ・福生市子ども議会
- ・市制施行 50 周年記念事業『池上彰氏特別講演会』
- ・市制施行 50 周年記念事業『ネッツ多摩 S & D フィールド（市営競技場）オープニングセレモニー』

○各委員の主な意見

- ・感染予防をしながらできることをやっていくという姿勢がとてもよかった。
- ・成人式は一生のうち一回であり実施出来てよかった。座席番号による出欠状況の把握や配布物も手渡しではなく席に置くかたちで非常に細やかに実施されていた。
- ・新しい生活様式、ニューノーマルについて市民にもう少し説明していく必要がある。
- ・各事業は市長のリーダーシップと職員の努力等があった開催できた。



○令和5年度に向けた提言〔イベント等〕

【提言1】基本ルールの作成

開催の決定については、国や東京都の基本方針に基づき、開催方法に係る基本ルールを作成し、福生市新型インフルエンザ等対策本部会議で検討することを前提に、その中で、主要なイベント事業については可能な限り開催する方向で検討していただきたい。

【提言2】歴史的資料としての記録

職員のイベント開催に向けた尽力の積み重ねは資産である。開催にいたるまでのプロセス等も含め、意識的に後世への歴史的な資料として、できる限り映像、文章、資料等を記録していただきたい。

【提言3】創意工夫の共有

開催するにあたり創意工夫した手法等については効果を検証し、他の部署及び全庁での共有を図っていただきたい。

【提言4】ライブ配信及び動画の効用と更なる魅力発信

人数制限への補完として動画配信が行われたが、遠方にいるあるいは現地に行けない市民もその内容を見て体感する機会につながった。ライブ配信や動画の作成・配信を通じて広く市のイベント等、魅力を伝えることを心がけていただきたい。

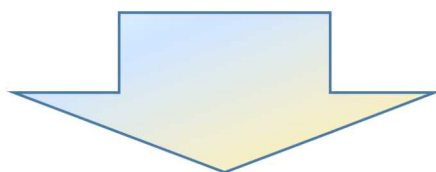
居場所、心・体のケア

○調査研究した主な事業（所管部署から報告のあった主な事業）

- ・心と体の健康ギフトプレゼント
- ・学童クラブの午前中開所
- ・子育てひろばのイベント実施
- ・図書館における「おはなし会」の実施、0～2歳児向けおすすめ絵本の紹介
- ・学校教育におけるエールウィーク等
- ・新春ふっさウォーキング
- ・介護予防教室、公園体操
- ・学校施設開放

○各委員の主な意見

- ・カタログ申請で安否確認のため職員が御自宅を訪問して、必要があれば地域包括支援センター等につないだのはコンパクトシティの特色であり顔の見える支援の事業である。
- ・児童館を居場所として開けていたということは、イベントなどができなくても、児童館を開けていただけていたということが、とてもよかった。
- ・子供やお母さんたちにとって、人と話したり誰かと接することは、不要ではなくて必要なことで、感染予防をしながら子育てひろば事業が継続できたということはよかった。
- ・子育てひろば事業については、地域の方からも話を伺っているが、保護者の方々の心のよりどころになっている。
- ・子供川柳についても、子供たちの思いが捉えられたすばらしいものだった。
- ・学校施設開放事業では、地域スポーツ活動を継続することができる仕組みを新たに作られたことは大変意義があり、まさに新しい生活様式の一端である。
- ・子供が一人のときにマスクを外しにくいときにも、周りの理解があると外しやすい。



○令和5年度に向けた提言〔居場所、心・体のケア〕

【提言5】子供・保護者の居場所の確保

心と体のケアの観点から、人と触れ合う事業や居場所づくりが不可欠なため、子育て、教育、介護予防、スポーツ等の開催事業については引き続き実施に努めていただきたい。特に、子育て世代の親子が孤独感、孤立感を感じることがないように、子供の居場所づくりの視点から、子育てひろば、児童館等については開設の方向で積極的に検討していただきたい。

【提言6】市民のスポーツ環境の充実

施設予約や学校施設開放などについて、市民の利便性向上の視点からさらに充実を図るとともに、広域連携の視点からのルール作りを進めていただきたい。

【提言7】成人・高齢者の心身と居場所づくり

室外での運動（介護予防教室、公園体操など）は、引き続き実施に努めるとともに、更に積極的に推進していただきたい。その中で、高齢者が孤立感、孤独感から抜け出すためには、第三者が踏み込んだ声掛けをすることが有効である。地域に居場所をつくり市民を広く巻き込む地域リーダーの育成を推進していただきたい。

【提言8】コンパクトシティの強みを生かす

機会をとらえ高齢者等への戸別訪問など、コンパクトシティ福生の特徴を生かし、顔の見える支援を進め、孤独や孤立とならないための取組を積極的に推進していただきたい。

動画配信、ICT 活用

○調査研究した主な事業（所管部署から報告のあった主な事業）

〔動画配信〕

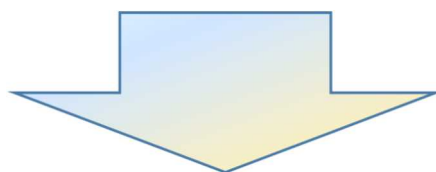
公民館事業、筋力トレーニング、読み聞かせ、感染予防、子育て、保育園施設見学、
おうちでプチ工作など

〔ICT 活用〕

学習用端末（i P a d）及び電子黒板等の配備、オンライン授業、全校集会の実施

○各委員の主な意見

- ・ 動画を利用して市民とつながっていくというのはとてもよい。
- ・ 動画だと一方通行なので、トレーニングのオンライン講座のような形で市民とのつながりがその場でできるような講座などもあったらよい。
- ・ 動画配信については、通常の講座より多くの人に参加いただける。若年層等にも届いていくような流れというのが作れば、さらに活用の余地があるのではないか。
- ・ 公共施設でも W i - F i の整備が進むので密にならない程度に集まりながら、ハイブリッド会議のようなことも今後できるのではないか。
- ・ 動画を作るに当たってのガイドラインを作り進めていただきたい。
- ・ i P a d 配備について、連絡等の活用は進んでいるということですがけれども、先生方も今後も活用いただいて、ぜひ有効に使っていただきたい。



○令和5年度に向けた提言〔動画配信、ICT活用〕

【提言9】動画の作成・配信・活用

動画の配信が大変有効であった。介護予防等の運動動画、子育てに寄与する動画、市民の活動に関する動画など、様々な分野で幅広く配信を進めていただきたい。秘書広報課と協力し各部課が動画を作成、活用する文化を形成するとともに、動画の作成や配信、活用に関するガイドラインを策定し進めていただきたい。

【提言10】Wi-Fi環境の活用とリーダーの育成

公共施設のWi-Fi環境も整ってきた。市民もオンライン会議等やライブ配信を取り入れ、市民相互や行政とのコミュニケーション、さらには魅力的な発信を行うなど活動の幅を広げるためのデジタル活用リーダーの育成を行う取組を進めていただきたい。

【提言11】学校におけるICT活用

学校におけるICT活用については、ここで福生市のGIGAスクール構想と感染症対策のためのICT環境の整備に係る国からの支援が奏功した。教職員の研修等の更なる充実を図り、GIGAスクール構想における主体的・対話的な深い学びの実現に向け更にご努力いただきたい。

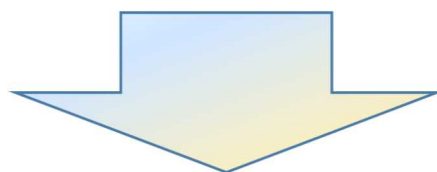
事業継続（工夫・方法）

○調査研究した主な事業（所管部署から報告のあった主な事業）

- ・学童クラブ等の手続きにおける郵送対応
- ・子育てひろばの人数把握用マグネット作成
- ・BCG予防接種の感染リスク低減
- ・学校給食のパンの個包装化、果物の提供を取りやめ果実ゼリー等へ変更、おかわりの盛り付け等を工夫

○各委員の主な意見

- ・工夫をし様々な努力で、必要なサービスの停止や低下をしないという姿勢でやられているということが分かった。
- ・子育てひろばも利用人数の制限等の工夫をしながら、衛生管理を徹底して開所されている様子が分かった。
- ・予防接種なども分散させて感染防止をした上で推進された。
- ・学校給食における工夫というところで、お代わりを希望する生徒はあらかじめお代わり分を入れたり、これも工夫だなと思った。



○令和5年度に向けた提言〔事業継続（工夫・方法）〕

【提言 12】 創意工夫と更なる研究

コロナ禍における事業継続は職員にとって新たな市民サービスの契機と業務執行能力の向上につながったと考える。新たな発想、工夫で業務改善につなげるとともに、各種手続の簡素化と事務負担軽減につながる取組を推進し、オンライン手続等の密にならない工夫などをさらに検討していただき、市民サービスの低下を招かない、安全で快適な市民生活につながる手法の研究を引き続きお願いしたい。

【提言 13】 子供の視点から考える事業継続

コロナ禍で中止及び規模縮小となっている町会・自治会の夏祭りやイベント等の事業継続については、子供や若者の視点からみても困難になっている。あらゆる機会をとらえて、子供や若者への働きかけや意見、考えを取り入れる機会を意識的に創出し地域事業の継続に資する取組を町会・自治会等の地域の関係者に訴えるとともに支援をお願いしたい。

【提言 14】 創意工夫の共創

行政による様々な創意工夫に基づく取組に対して、市民もこれを有効なものにするためのルールや方法を理解し共有するとともに、持続可能な形にしていくために必要な「共創」の視点を行政と市民で共に育む施策の展開を進めていただきたい。

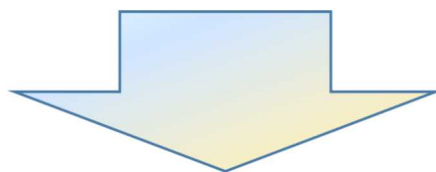
人材・啓発・組織

○調査研究した主な事業（所管部署から報告のあった主な事業）

- ・介護予防リーダーの介護予防活動
- ・町会・自治会役員向け勉強会の開催
- ・地域活性化交付金対象事業の提案
- ・iPad 導入時の教員研修
- ・り患者対応の組織横断体制の構築

○各委員の主な意見

- ・体操など介護予防リーダーが声をかけ、町会の方同士で誘い合って行く。一步進んだ声かけというのは非常に重要だと思った。誰かが必ずどこかにつながっている、そういった地域がこれからは必要となる。
- ・町会、自治会の集まりがなかなかなく、そういった中で高齢の方などの状況が変化しているのも感じており、地域活性化交付金対象事業の提案など非常に重要だと思う。
- ・町会の活動について新たな提案や考える講習会など、今後も皆さんの知恵が出てくるようお願いしたい。
- ・人間と人間の関係性をこれから地域でどのように保つか、持続可能な地域をどうやってつくっていくかということを、より深く考えていかなければいけない。
- ・教員研修の写真をみると、多くの方が熱心に受講されている様子が伝わってきた。先生方も研修の機会も活用いただいて、ぜひ有効に使っていただきたい。



○令和5年度に向けた提言〔人材・啓発・組織〕

【提言 15】 情報や活動事例の水平展開

コロナ禍でも継続すべき地域活動について参考となる情報や活動事例の提供に努め、地域においては可能な限り取り入れていただき水平展開を図り、町会・自治会等コミュニティの維持に努めていただきたい。

【提言 16】 職員の負担軽減と組織的応援体制の構築

感染症拡大防止策を講じながらのイベント開催は、準備等に関し職員の負担が大きい。また職員も感染する中で、業務負担が偏らないよう応援体制を構築し、組織全体で対応する体制の更なる強化をお願いしたい。

【提言 17】 日常からのつながりの構築

コロナ禍以前から町会・自治会は組織的に脆弱化している。コミュニケーションの機会が奪われたことで地域の情報が伝わりにくく、支援につながらない状況となっている。日常的なつながりづくりの大切さを訴えるとともに、人と人、人と行政をつなぐ地域リーダーの育成を推進していただきたい。

【提言 18】 サークル等小集団のつながりと生涯学習に関連する職員の育成

地域には小さなサークルやグループがある。そうした小集団間のコミュニケーションを図るキーパーソン存在は大きい。そのような人材をどのように発掘し、育成しつなげていくかが、持続的な地域をつくるカギとなる。組織や属性が異なる小集団を支援し、つなげる一層の取組を推進するため、生涯学習関連の職員の育成に努めていただきたい。

6 新型コロナウイルス感染症対策特別委員会委員名簿

役 職	氏 名
委 員 長	小 澤 芳 輝
副委員長	佐 藤 弘 治
委 員	山 崎 貴 裕
〃	池 田 公 三
〃	堀 雄 一 朗
〃	原 田 剛
〃	三 原 智 子